

# 第十章

## 我が園の専門性を

## 地域に役立たせよう

―レスパイトが障害者を飛躍させる―

(平成元年)

52 53 54 ~ 58 59 60 61 62 63 64 ~ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 ~

- |        |                               |                                    |   |
|--------|-------------------------------|------------------------------------|---|
| •春日園開園 | •たんぼぼ作業所管理開始<br>•天皇陛下より御下賜金拝受 | •第2春日園開園                           | •生活ホーム「とびた」設立   |
|        |                               | •生活ホーム「KASUGA」設立<br>•生活支援サービスのぞみ設立 | •生活ホーム「1・2号館」設立<br>•つくし/たけのこ作業所運営<br>•障害者自立支援法へ移行<br>•のぞみ移転統合 |

社会福祉法人はその地域に福祉資源がない場合、率先して資源を作っていく努力をしていくことが公共の負託に答えることではないか?と考える。

平成11年11月1日生活支援サービス「のぞみ」が深谷市上野台のアパート2DKを月額35千円で借りうけスタートした。俗に言うレスパイトである。

この事業所は当時県北にはなく、制度も県の事業であった。その様な意味に於いて当時の県職は頑張って福祉をやっていたのかな?と思う。この半年ほど前から春日園利用者の外出(野球観戦)等の企画などをし、試行的実践を行っていた。

元々施設に入所していると、遊びのための外出は行事以外ほとんどなく、たまに知人とタクシーで出かける程度のものであった。授産ではこのころ平均工賃支給額が約25千円ほどになり、利用者にとりも出てきたのではないかと思う。のぞみの試行事業に対し、「利用者に外出してもらおう。我が園のノウハウを地域にも役立ってもらおう」を合言葉に冒頭のようにオープンしたのである。

### ①名称はどいつから?

しかし、レスパイトという言葉すら満足に私たちは知らなかった。一時預かり、外出、を主とし4事業を行う。辞書を引くと一時休止などがある。そんなことからファミリーサポートという名を使っているところもある。でも、私達は障害者の支援が主で家族支援は結果であるとの考えから、生活支援サービスとした。のぞみは法人名から?新幹線?それとも火星探査機?・・・。

### ②苦戦のレスパイト事業

オープンしたものの周囲の人たちがレスパイトを知らない。専従職員2名は3ヶ月間程は営業案内パンフの配布に大方の間を費やさざるを得なかったようである。

だんだんに養護学校を中心に利用される方が増えてきたが、また、県北にレスパイトの事業者が一挙に方々で開設したのも同時期であった。たちまち利用者が増加し、登録ヘルパーも2名3名と雇用していったが、利用者ニーズに応じた勤務時間のレスパイトではパートの確保は難しいものだった。

そして営業成績は3年間赤字続きでもあり、担当職員には苦勞をさせた思いがある。

### ③支援費制度から飛躍的な利用者増となる。

平成15年4月障害者支援費制度が施行された。それまでの措置から契約へと変わり、障害者のヘルパー派遣制度が義務付けられるなどし、障害者福祉サービスは飛躍的に質量ともに増大した。当時全国的には知的障害者のヘルパー派遣事業を行っている市町村は20%台であったと記憶している。

のぞみの手狭なアパートでは支援費制度下での営業は難しいと判断し、14年中に新営業所に移転し、支援費制度に備えた。15年4月に第2種居宅支援・居宅介護事業と5月に児童デイサービス事業を新たに設けることとした。

### ④熊谷営業所オープン

大里地区周辺で児童デイを行っている営業所はないため、養護学校の下校時間からのぞみを利用する方は年々数を増し、特に夏休みは芋を洗うようであった。このころの登録者数は未

利用者も含めて500人程に膨れてしまった。予約が入らない状態でもあったため、いっそ熊谷市と深谷市で利用者を分け合おうと、平成17年1月5日日光熊谷営業所の設立準備室を設け、4月オープンとした。

方針は予約を蹴るな。熊谷営業所は準備に努めたことと深谷での実績、スタッフの頑張りで順風満帆の出足であった。

更に地域の老人にもサービスをと考える老人居宅支援も行ったが、既得事業所との競争には抗しがたく2年程で介護保険から撤退した。しかし福祉有償輸送には今も通院などにご老人が利用されている例もある。

#### ⑤ やっぱり自前の営業所がほしい(のぞみの統合)

のぞみは何れも賃貸契約の建物だった。熊谷営業所の19年の賃貸更新の折に値上げを申し出され、深谷の営業所も値上げを求められた。それぞれ改修に500万円程の費用をかけたのを承知の上での事である。人を見る目がなかったと言えばそれまでであるが何とも悔しかった。

このままでは事業の存続が出来なくなる。毎月40万円ほどの経費が無くなるのである。ならば融資を受け毎月30万円の返済をしたほうが有利であるし、間取りも自由に考えられる。利用者も保護者も安心して利用できる、21年4月深谷市長在家の地主のご理解を戴き新築オープンした。

#### ⑥ のぞみの仕事はどうなる?

のぞみの利用者の大半は特別支援学校を卒業するまでの利用が多い。やはり卒業されると施設での活動が中心になるからと思う。それはそれとしてもやっぱりレスパイトが本来のぞ

みの仕事と考えている。他事業所では数10人の障害者のために多くのスタッフが長時間勤務している実態があったりしているが、のぞみは時間サービスが中心で稼働率や収益性が悪い。しかしレスパイトという言わなければ薄利多売方式こそ生活支援

サービスの真骨頂ではないかと思う。但し、深谷市は今後レスパイトの自己負担分の補助金を削減していきそう。熊谷市は自立支援法成立から自己負担分の補助金を出していない。社会参加という命題に対しやっぱり財政が絡んでしまうのは残念である。



▲ のぞみ深谷営業所

